

計測機器や避雷装置の設計、施工を行うメカトロ技研（高松市）は、従来の避雷機器より大きなエネルギーの雷にも対応できる新タイプの避雷装置を開発、特許を取得した。落雷被害が増える中、企業や官公庁向けに落雷頻度を測定できる機器の貸し出しも開始。落雷被害防止のためのコンサルティングを強化し、装置の拡販につなげる。

電装置は、電源の引き線などに連結し、雷に過電流から機器を保護。従来機は、施設を直撃するエネルギーの雷には対応できないが多かった。社が開発した避雷装置は、放電部分の形状をすることで、落雷による電流を空气中に効率放出。同社などの実証によると、従来機に比べて10倍以上のエネルギーにも対応できるという。

社は、落雷被害を受け影響が大きい携帯電話の無線中継局や企業の公共施設などへの導入を想定。従来機に比べ、重量は10分の1、設置が簡単で、コストも抑えられる。年



タルビオ店やアミューズ施設など、これまで高松には縁遠かった店舗がシニアを取り込むとする動きが広がっている。人口が少子高齢化が一層進む中、企業がターゲットだ。ア層にシフト。高齢者のニーズは、生鮮野菜の販売を強化を掲げる店も登場している。

タルビオ店のTSUTAYA（ツタヤ）は、今夏初の無料貸し出しサービスが好評。今月から再び実施する。香川市伏石町のツタヤ伏石店は、今夏のサービス期間中、以上の新規入会者数が前年の2倍に急増。担当者によると、60代は若いころに映

「低燃費住宅」を提案

香川・愛媛 共同で建築会社設立
香川・愛媛 工務店6社



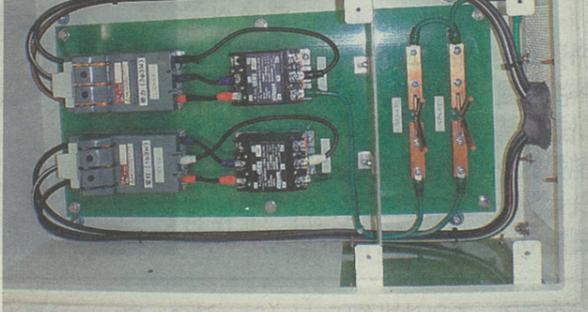
低燃費住宅・四国（高松市）を設立した。省エネ性能の高い木造住宅を手掛け、光熱費は現在の一般家庭の3分の1程度に抑制。ドイツ発祥で、家の燃費証明書ともいわれる「エネルギーパス」も取り入れ、省

シニア層獲得狙う ビデオ・ゲーム施設

画に親しんだ世代。店に足を運んでもらえる動機づけさえあれば、「利用してもらえ」と分析する。同市紙町の東原景さん（64）は「定年後、映画を楽しめる時間が増えた。無料サービスはうれしい」とシニアサービスを歓迎する。各層拡大の動きはアミューズメント施設でもみられる。ボウリング場やゲームセンターが入るラウンドワンスタジアム高松店（高松市松島町）子目では、55歳以上向けに平日午前10時～午後8時の割引プランを用意す

香川とびっくす

る。客足が伸び悩む平日の昼間に、時間にゆとりのあるシニア層に訪れてもらおうが狙い。ボ



メカトロ技研が開発した新型避雷装置

料とする断熱繊維を活用。さらに、日照や周囲の建物など立地環境も考慮して設計、施工し、年間の光熱費を8万～10万円に抑えることを目標としている。

エネルギーパスは、湿度や湿度など快適な室内環境を想定した上で、冷暖房や換気、給湯、照明など全ての年間エネルギー消費量を算出し、表示する証明書。顧客は住宅購入の判断材料

ミニエース

●再生可能エネルギーの固定価格買取取り制度説明会 四国経済産業局などは29日午後1時から3時20分、高松市の高松サポト合同庁舎で再生可能エネルギーの固定価格買取取り制度に関する説明会を開く。資源エネルギー庁の担当者が、発電設備の認定手続きや電気利用者の負担などについて説明する。参加無料。定員は各工

にでき、購入後の省エネ実践の目安に使える。

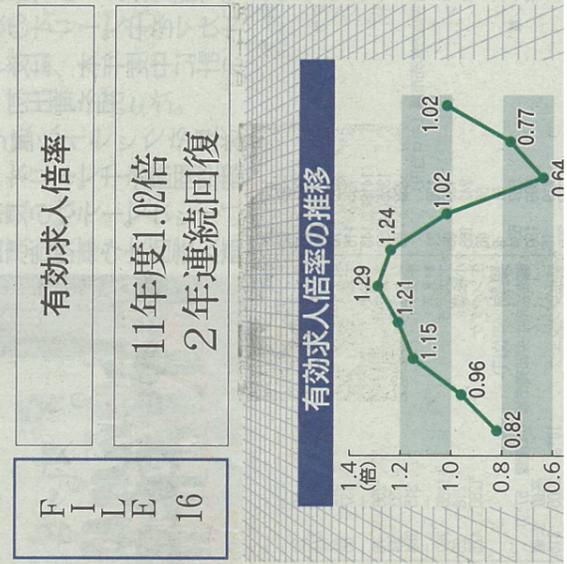
年間の施工目標は30棟。石川組の石川義和社長は「住宅そのものの省エネ性能を上げなければ太陽光発電を備えても効果は小さい。県内で低燃費住宅を広めていきたい」としている。

モデルハウスの営業は午前10時～午後6時。水曜定休。問い合わせは〈0120（14）6711〉。

50人（先着順）。申し込みの締め切りは25日。申し込み問い合わせは同局エネルギー対策課〈087（811）8535〉。

●私算債発行 船舶用のエンジン台などを製造する三和テスコ（高松市）は、四国銀行の保証付き無担保私算債を発行した。発行額は5千万円で、発行期間5年の満期一括償還。同行が全額を引き受ける。調達資金は運営資金に充てる。

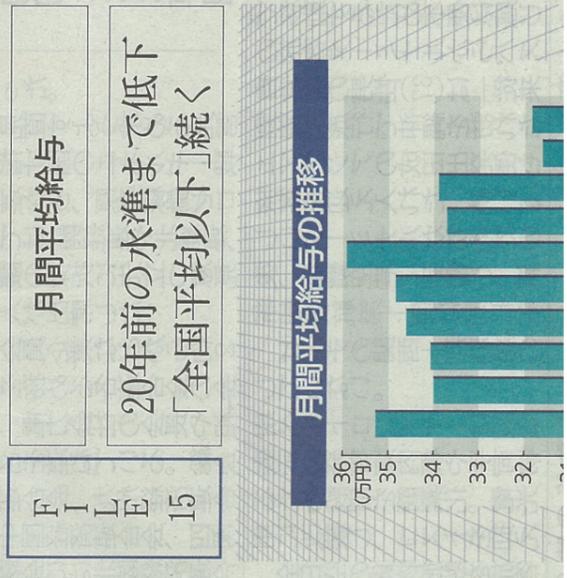
2011年度の県内の有効求人倍率を0.25から0.26に引き上げた。2009年度から2年連続で倍率を回復した。ただ、倍率は依然低水準で厳しい。過去10年間の推移をみると、2001年度は1.29倍、2002年度は1.24倍、2003年度は1.21倍、2004年度は1.15倍、2005年度は0.96倍、2006年度は0.82倍、2007年度は0.96倍、2008年度は1.02倍、2009年度は1.02倍、2010年度は1.02倍、2011年度は1.02倍と推移している。



FILE 16

データでみる香川の経済

県内の勤労者の月間平均給与（2010年）は31万8500円で前年からは2343円増えた。2年ぶりに増加したものの、長引く景気低迷で給与の減少には歯止めがかかっておらず、給与水準は20年前のレベルまで落ち込んでいる。1970年代以降の給与の推移をみると、好景気が続いた70～80年代は順調に増加。バブル経済の崩壊で93年には初の前年割れとなりながらも、95年に過去最高の37万1315円を記録した。しかし、その後は、バブル崩壊の後遺症から低下傾向が鮮明になり、2000年以降は33万～35万円台で推移。リーマン・ショックの影響で09年には前年から2万2847円減の31万6157円まで急落した。10年はわずかに持ち直したものの、水準的には1989年と同じレベルに逆戻り。ピークの95年と比べると、5万



FILE 15

20年前の水準まで低下 「全国平均以下」続く

月間平均給与

少子高齢化が進む中、レンタルビデオ店などは高齢層獲得のためのサービスを提供している。高松市内



新サービス続々登場

ウリナなどを楽しむお年寄り。客足が伸び悩む平日の昼間に、時間にゆとりのあるシニア層に訪れてもらおうが狙い。ボ

総菜販売などで高齢者の利用が増えるコンビニでもよりシニア層を意識した商品を並べる。

ローソン三木町役場前店（三木町鹿伏）では生鮮野菜の品そろえを充実。野菜販売で近隣の高齢者の来店が増えたといい、担当者は自身から近くスーパーよりも店舗規模が小さいため、お年寄りには利用しやすい」とコンビニの利点を強調する。

さらに、高齢者の取り込みに力を入れるのは、ファミリーマート高松鬼無町店（高松市鬼無町）。店頭で花や神棚用のサカマを販売するほか、店先では定期的に地元農家から仕入れた野菜を販売する産直市を開催。オーナーの佃政弘さんは「高齢者の多い地域なので需要が高い。来店した際には一般商品も合わせて購入してもらえ」と手応えを感じている。